

緑の基本計画

第三期行動計画

～平成 30 年度事業評価のまとめ～



目次・総合評価表

施策番号	施策名	担当課	◎	○	△	×	-	平均	総合評価
1-1	自然環境保全地域の指定・拡充	土木課	1	9	1			2.00	○
1-2	樹林地管理ボランティアの人材育成・組織化・活動支援	土木課		7	4			1.64	○
2-1	生態系や親水性に配慮した水辺空間の整備	土木課		8	3			1.73	○
2-1	生態系や親水性に配慮した水辺空間の整備	区画整理課		1		8		0.22	×
2-2	既成市街地での適切な公園配置方針の策定	土木課			7	3		0.70	△
2-3	借地公園制度の運用検討	土木課		6	4			1.60	○
2-4	身近な公園の再整備	土木課	1	9	1			2.00	○
2-5	公共施設の緑化	教育総務課		8	3			1.73	○
2-5	公共施設の緑化	指導課			10			1.00	△
2-5	公共施設の緑化	子育て支援課	1	10				2.09	○
2-5	公共施設の緑化	生涯学習課		8	2			1.80	○
2-5	公共施設の緑化	市民協働課		8	1			1.89	○
2-5	公共施設の緑化	健康課		8	3			1.73	○
2-5	公共施設の緑化	市立病院管理課	1	9	1			2.00	○
2-5	公共施設の緑化	図書館課		8	2			1.80	○
2-6	自然樹形を感じさせる維持管理の検討	土木課		8	2			1.80	○
2-6	自然樹形を感じさせる維持管理の検討	管理課		10	1			1.91	○
3-1	土地区画整理事業による公園・緑地の整備	区画整理課		8	1			1.89	○
3-1	土地区画整理事業による公園・緑地の整備	市街地整備課			2	7		0.22	×
3-2	公共施設の緑化	教育総務課	1	8	2			1.91	○
3-3	地区計画区域の拡充と緑化率条例の検討	都市計画課		10				2.00	○
3-4	四季折々に楽しめる街路樹の整備	区画整理課					11	0.00	-
3-4	四季折々に楽しめる街路樹の整備	市街地整備課		1	7	2		0.90	△
4-1	駅前緑化プロジェクト	区画整理課					11	0.00	-
5-1	市民ボランティアの人材育成・組織化・活動支援	土木課			3	8		0.27	×
5-1	市民ボランティアの人材育成・組織化・活動支援	市街地整備課		1	7	1		1.00	△
5-2	各種普及啓発活動の実施	土木課			8	2		0.80	△
5-2	各種普及啓発活動の実施	管理課			1	8		0.11	×
5-2	各種普及啓発活動の実施	指導課		9	2			1.82	○
5-3	水と緑の情報収集・提供	土木課		9	1			1.90	○

評価シートの記入について

評価 (◎、○、△、×、-)	<p>5段階で評価してください。</p> <p>◎: 高く評価できる(目標を早期に達成できた、努力しているなど)</p> <p>○: 評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)</p> <p>△: やや評価できる(少し遅れ気味だが、確実に進んでいるなど)</p> <p>×: 評価できない(まったく進んでいないなど)</p> <p>-: 未評価(当該年度は着手時期ではない)</p>
平成30年度事業報告に対する意見	
<p>上段の評価をした理由</p>	

1.「緑の環」の保全活用プロジェクト

1-1 自然環境保全地域の指定・拡充

施策の展開方針	「緑の環」を形成している多摩丘陵の斜面緑地は、市内のどこからでも目にすることができるなど、稲城の緑の骨格として緑豊かな稲城のイメージの源泉となっています。 市街地から見える景観的に重要な樹林地や谷戸沿いの樹林地、生物多様性が高い樹林地の保全を図るため、自然環境保全地域の指定・拡充を図り、景観や生物多様性の向上に努めます。
担当課	土木課
対象施設など	良好な民有樹林
10年間の目標	18箇所 16.3haを保全地域に指定・拡充する。
展開手法など	「稲城市における自然環境の保護と緑の回復に関する条例」に基づき、自然環境保全地域を指定します。

担当課別行動計画

担当課名	土木課	
平成29年4月現在の状況	14箇所 約9.9ha	
事業目標量	18箇所 16.3haを保全地域に指定・拡充する。	
第三期事業量	平成29年度	薄葉谷戸川東側の斜面緑地
	平成30年度	駒沢学園北側の斜面緑地
	平成31年度	追加指定について検討する。
第四期事業量	追加指定について検討する。	
平成30年度事業報告		
事業目標	駒沢学園北側の斜面緑地	
事業実績	薄葉谷戸川清田緑地(約0.4ha)の指定	
担当課評価	○	
評価理由	平成30年度の事業目標として設定していた土地とは異なるが、平成29年度の事業目標としていた土地の一部を新規で指定できたため。	
今後の対応	引き続き市内の良好な民有緑地確保のため、新規指定に努める。	

<p>評価 (◎、○、△、×、－)</p>	<p>○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)</p>
<p>平成30年度事業報告に対する意見</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・保全地域が着実に増えていることが評価できます。 ・1年遅れでも、指定できて良かったと思うが、年次の予定を前倒して、早急に、年に2件ずつでも増やすことを検討すべきと思う。 ・実際にモノゴトが動いているので、評価できる ・薄葉谷戸川東側の件が、一部にせよ指定できたことは評価できる。報告であり評価の対象とするからには、見送られてきた事情や理由も記録して残していくべきです。担当課に責がある状況ではないことは、審議会報告等で承知ではあるが、それだからこそ、一部にとどまった事情や、駒沢学園北側を先送りにした事情なども、記録しておけば、今後の取組や評価の参考になるはずで。ともすればやるだけになる可能性がある行動計画報告の模範となる記述に期待したいです。 ・多摩丘陵の一部として緑豊かな稲城のイメージが失われないよう、民有緑地確保は非常に難しいと思われるが最大限努力して欲しい。山野が失われていくスピードがあまりにも速い。 ・「良好な民有緑地確保」に向け、量的な確保だけでなく、緑地の質的価値(例えば、植物の希少性等)も考慮して、新規指定をを着実に実施していきましょう。 ・一団の土地の確保が出来た。 ・予定地とは異なる土地であるが、新規指定することができた。 	

1.「緑の環」の保全活用プロジェクト

1-2 樹林地管理ボランティアの人材育成・組織化・活動支援

施策の展開方針	市街地から見える景観的に重要な樹林地や谷戸沿いの樹林地、生物多様性が高い樹林地の保全を図るため、指定された自然環境保全地域の樹林地の育成管理を行う、樹林地管理ボランティアの人材育成・組織化・活動支援を行います。
担当課	土木課
対象施設など	穴澤天神社・よみうりランド北側緑地
10年間の目標	2箇所 1団体(第一期段階) 第二期以降に、実施箇所の追加の検討
展開手法など	穴澤天神社・よみうりランド北側緑地に隣接する、川崎市の小沢城址特別緑地保全地区では、既にボランティアによる樹林地管理が行われています。このボランティア団体と連携を図りながら、稲城市側でも樹林地管理ボランティアを組織化していきます。他の樹林地管理についても、その管理ノウハウを広めていきます。

担当課別行動計画

担当課名	土木課	
平成29年4月現在の状況	まったく進んでいない。	
事業目標量	2箇所1団体(第一期段階)。第二期以降に実施箇所の追加の検討する。	
第三期事業量	平成29年度	民有樹林地における活動の事例を調査する。
	平成30年度	民有樹林地における活動の事例を調査する。
	平成31年度	5-1で組織化した市民ボランティアを民有地で活動できるよう、検討する。
第四期事業量	5-1で組織化した市民ボランティアが民有地での活動を実施する。	
平成30年度事業報告		
事業目標	民有樹林地における活動の事例を調査する。	
事業実績	市内及び近隣市の民有樹林地における活動の事例を調査した。	
担当課評価	○	
評価理由	事例の調査及び活動の視察を実施したため。	
今後の対応	活動事例の調査を進めながら、活動に向けて検討する。	

<p>評価 (◎、○、△、×、－)</p>	<p>○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)</p>
<p>平成30年度事業報告に対する意見</p>	
<p>・多摩市の活動状況を視察でき、取り組み方法等の話を直接聞くことができた。また、調布市の事例も紹介いただき、取り組みのための要綱等の作成に方向付けができた。</p> <p>・5-1の進捗に左右される事項とは思いますが、最終目標である市民を巻き込んだ活動に至るための市民への情報発信などの働きかけは進められているのでしょうか。事例を調査したのであれば、その成果を何らかのかたちで公開するなど、31年度につながる実績を残したいところですが、調査だけが目標であったのであれば、目標設定が甘い認識による低い設定だったと思わざるを得ません。</p> <p>・市・私有地の樹木地の維持管理に経費削減が計れるボランティアはこれからのプロジェクトに必要な存在です。事業目標を早めては。</p> <p>・実際にモノゴトが動いているので評価できるが やや 弱い。</p> <p>・近接地での活動の把握ができたことは喜ばしいことであるが、ボランティア活動を軌道に乗せるには遠い道のりと感じる。</p> <p>・限られたスペースのためか、「調査した」、「視察した」では折角の実態が見えてこない。</p> <p>・市民ボランティアの民有地での活動の視察をさらに多く実施して欲しい。</p> <p>・本来の計画が全く進んでいない状況で、「事例調査・活動視察」を実施したことは大きな前進で、高く評価できる。</p> <p>・調査や視察ができたことが評価できます。</p>	

2.身近な緑拠点づくりプロジェクト

2-1 生態系や親水性に配慮した水辺空間の整備

施策の展開方針	既成市街地内を流れる大丸用水を活用し、散策路の整備を行い、水と緑の歩行者空間のネットワーク化を進めます。整備を行う際は、身近な親水空間として生態系に配慮した護岸整備などを進めていきます。
担当課	土木課・区画整理課
対象施設など	菅堀・新堀・中野島用水堀
10年間の目標	3,362mの整備
展開手法など	菅堀は、第四次稲城市長期総合計画に基づきながら、生態系や親水性に配慮した親水公園の整備に努めます。 区画整理事業により整備される主要な用水について、生態系や親水性への配慮を事業計画に盛り込み、整備を進めていきます。
備考	土地区画整理事業区域内は区画整理課が担当し、その他は土木課が担当する。

担当課別行動計画

担当課名	土木課	
平成29年4月現在の状況	菅堀150mの調査・基本設計、詳細設計を行った。	
事業目標量	菅堀を整備する。	
第三期事業量	平成29年度	菅堀150mの整備
	平成30年度	菅堀120mの整備
	平成31年度	菅堀150mの整備・事業完了
第四期事業量	-	
平成30年度事業報告		
事業目標	菅堀120mの整備	
事業実績	令和3年度工事に向けた詳細設計を実施した。	
担当課評価	○	
評価理由	事業の進捗が遅れていることから整備には至っていないが、新たに事業スケジュールを立て直し、平成30年度に実施する計画であった詳細設計が完了したため。	
今後の対応	平成30年度に詳細設計を実施した区間の工事と残り150m区間の設計及び工事の実施。	

評価 (◎、○、△、×、-)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
平成30年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・遅れは、上位計画(区整)の遅れかと思われるが、着手が1年遅れたから完了も1年遅れるとしないようにすることは難しいのであろうか。 ・2年続けての「整備未着手」は、毎年の目標を年単位での「整備」とのみしてきたことが反省される材料ではないか。30年度は詳細設計ができたことで次年度の整備を容易にしたと思われるが、設計に必要な期間をどう見ていたのか、遅延の事情や見直しについても評価で触れてほしい。 ・事業計画が実施の方向に進んでいる。予算付けの関係で予定が前後するが進捗が期待できる。 ・計画の詳細詳細設計が完了したことは、評価に値し、今後の計画実施の進捗が期待される。 ・H29年度に工事ができていない。H30年度は概ね予定通りの工事ができたと思われるが、工期完了にはやや疑問が残る。 ・詳細設計が完了したことから今後の取り組みに期待します。 	

担当課名	区画整理課	
平成29年4月現在の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・榎戸土地区画整理事業:中堀系水路62mの整備完了 ・矢野口駅周辺土地区画整理事業:田川系45mの整備完了 ・稲城長沼駅周辺土地区画整理事業:新堀系196mの整備完了 ・南多摩駅周辺土地区画整理事業:清水川系15mの設計中 	
事業目標量	新堀・中野島用水堀などを整備する。	
第三期事業量	平成29年度	
	平成30年度	・榎戸土地区画整理事業:清水川系(25m)
	平成31年度	
第四期事業量	・榎戸土地区画整理事業:公園通り梨の道線(400m)	
平成30年度事業報告		
事業目標	・榎戸土地区画整理事業:清水川系(25m)	
事業実績	なし	
担当課評価	×	
評価理由	着手できなかったため。	
今後の対応	換地変更手続き及び建物移転に合わせ、工事実施予定。	

評価 (◎、○、△、×、－)	×評価できない(まったく進んでいないなど)
平成30年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・着手できなかった事情や、これを踏まえた平成31年度事業への見通しなどを記録してほしい。でないと「今後の対応」の明るい予定に期待ができない。 ・整備に至らなかった。 ・「着手できなかったため」ではなく、なぜに着手できなかったのかのご説明を伺いたかった。 	

2.身近な緑拠点づくりプロジェクト

2-2 既成市街地での適切な公園配置方針の策定

施策の展開方針	既成市街地で公園が少ない区域では、身近な緑の拠点づくりとして、適切な公園配置方針の策定を行います。
担当課	土木課
対象施設など	既成市街地
10年間の目標	第二期終了時点(平成28年度末)までに、公園配置方針を策定
展開手法など	公園利用の実態などの不足状況の調査を実施し、まちづくりのあり方に合わせて、市民ニーズを踏まえた公園の配置方針を策定します。

担当課別行動計画

担当課名	土木課	
平成29年4月現在の状況	既成市街地での適切な公園配置方針について検討した。	
事業目標量	第二期終了時点(平成28年度末)までに、公園配置方針を策定する。	
第三期事業量	平成29年度	これまで検討した既成市街地での公園配置方針に加え、生物多様性を考慮した公園・緑地の配置方針について検討する。
	平成30年度	平成29年度に検討した結果を踏まえ、既成市街地での適切な公園配置方針の策定をする。
	平成31年度	
第四期事業量		
平成30年度事業報告		
事業目標	平成29年度に検討した結果を踏まえ、既成市街地での適切な公園配置方針の策定をする。	
事業実績	平成29年度に未実施であった、生物多様性を配慮した公園・緑地の配置方針について研究した。	
担当課評価	△	
評価理由	公園は位置方針の策定までに至らなかったため。	
今後の対応	生物多様性を考慮した公園・緑地の配置方針の検討を行い、公園配置方針を策定する。	

評価

(◎、○、△、×、－)

△やや評価できる(少し遅れ気味だが、確実に進んでいるなど)

平成30年度事業報告に対する意見

- ・「生物多様性を考慮した公園・緑地の配置方針」の具体的な内容が示されないので、評価のレベルではないと思います。
- ・既成市街地の公園・緑地について、生物多様性に配慮するよりも地域住民のニーズに合った配置方針を策定する方が得策ではないかと思われます。
- ・あくまで研究は実績とはならない。おおよその指針や雛形が掴めていればよいが、準備までまだ険しい道のりと思われる。
- ・「既成市街地での適切な公園配置方針の策定」の説明に、「歩いて行ける身近な公園の充足状況図」は適当なのだろうか。配置が平等になっても、人口密度などを考えると疑問を感じる。そろそろ、別の尺度で策定を検討しなくてはならないように思う。
- ・「生物多様性を考慮した」の定義を明確にした方がよい。
- ・今後の実施の方向が期待できる。
- ・昨年度は「検討できなかった」という担当課評価「×」であった、いわば積み残しがあった訳だが、この部分が30年度に進められたかで評価が異なる。30年度実績は「研究した」となっており、あえて29年度目標の「検討する」と用語を変えたのは、「検討する」という何らかの成果を期待したい表現を避けたということなのか。29年度に目標とした水準まで2年度かけて届かなかったのであれば、評価を一段下げざるを得ない。何もかもできるとは思っていないが、現状の公園配置を評価し、事業化が困難だとしても何らかの方向性は出して欲しい。方向性を市民・行政に示すこともひとつの成果であり、できなかったことが現実条件を表現することになって、次の段階の計画設定に役立つと思われる。

2.身近な緑拠点づくりプロジェクト

2-3 借地公園制度の運用検討

施策の展開方針	新たな公園整備が困難な場合、借地公園制度を活用し、借地による公園整備を行います。
担当課	土木課
対象施設など	一定基準を満たすちびっ子広場など
10年間の目標	4公園(第一期)
展開手法など	一定基準を満たすちびっ子広場などを活用して、借地による公園整備を行います。 既成市街地での適切な公園配置方針を踏まえ検討します。

担当課別行動計画

担当課名	土木課	
平成29年4月現在の状況	下塚戸ちびっ子広場の開園告示。ふれあいちびっ子広場の公有地化。他のちびっ子広場についても借地公園制度の活用を検討を行った。	
事業目標量	4公園(第一期)、第二期以降は地権者の意向などを踏まえながら柔軟に対応していく。	
第三期事業量	平成29年度	下塚戸ちびっ子広場・なかよしちびっ子広場の公有地化を検討する。
	平成30年度	下塚戸ちびっ子広場・なかよしちびっ子広場の公有地化を検討する(継続)。
	平成31年度	下塚戸ちびっ子広場・なかよしちびっ子広場の公有地化を検討する(継続)。
第四期事業量	下塚戸ちびっ子広場・なかよしちびっ子広場を順次公有地化する。	
平成30年度事業報告		
事業目標	下塚戸ちびっ子広場・なかよしちびっ子広場の公有地化を検討する(継続)。	
事業実績	緑化推進基金の活用などによる公有地化の検討を行った。	
担当課評価	○	
評価理由	借地している全てのちびっ子広場に対し、公有地化の検討した。	
今後の対応	引き続き公有地化を検討する。	

評価 (◎、○、△、×、-)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
平成30年度事業報告に対する意見	
<p>・着地点が公用化という事なのだろう。公有地化に関しては地権者の方、地域住民の方々、市民の方々を含め納得する形となることが望ましい。</p> <p>・ちびっ子広場の整備に期待できる。遊具も揃い、子どもたちの喜ぶ顔が見える。</p> <p>・29年度報告では、担当課が「公有地化の検討を行っているが、具体的な方針が示せていない」と「△」評価されていました。30年度にこれが「○」に変わったということは、何らかの具体方針が出せたのでしょうか。そうならば実績欄にそういう表現をしていただきたいのですが、「検討はしました」というだけで「○」ならば、昨年と変わらないこととなります。目標が段階的に定められていないために、こういうことが起こるのだと思われませんが、この繰り返しであれば、PDCAサイクルなど成立しないこととなります。</p> <p>・「検討」だけでなく「実施」して欲しい。</p> <p>・地権者の相続の関係で、広場がなくなることを回避することは重要に思う。</p> <p>・継続的な取り組みが評価できます。</p> <p>・ちびっ子広場の公有地化の問題は、一朝一夕に解決するものではないので、引き続き検討を続けましょう。</p>	

2.身近な緑拠点づくりプロジェクト

2-4 身近な公園の再整備

施策の展開方針	老朽化した身近な公園は、子どもから高齢者までが気持ちよく使い、楽しく魅力ある公園となるよう、整備内容や整備後の維持管理などについて、地域住民との協働による再整備を進めていきます。
担当課	土木課
対象施設など	街区公園など身近な公園
10年間の目標	点検調査結果、市民の声などを踏まえて、必要に応じて再整備
展開手法など	再整備にあたっては、地域住民からなる検討会などとの協働による整備を進めます。 アダプト制度を活用した、地域住民による公園管理も視野に入れた公園の再整備に努めます。 再整備にあたっては、公園施設の点検結果などを踏まえて検討を進めます。

担当課別行動計画

担当課名	土木課	
平成29年4月現在の状況	稲城中央公園・上谷戸親水公園・亀山下公園などの再整備を図っている。	
事業目標量	街区公園など身近な公園を再整備する。	
第三期事業量	平成29年度	地域との連携を図りながら、公園の再整備を図る。
	平成30年度	地域との連携を図りながら、公園の再整備を図る。
	平成31年度	地域との連携を図りながら、公園の再整備を図る。
第四期事業量	地域との連携を図りながら、公園の再整備を図る。	
平成30年度事業報告		
事業目標	地域との連携を図りながら、公園の再整備を図る。	
事業実績	・城山公園へのドッグランの設置について、市民ボランティアと検討 ・多摩梨パークの改修について、アダプト団体とともに検討 ・地域の意見を聞き、若葉台公園内へのバスケットゴールを設置など地域の意見を聞きながら公園の再整備を図っている。	
担当課評価	○	
評価理由	事業目標のとおり公園の再整備を図っているため。	
今後の対応	地域との連携を継続し、検討を重ね、再整備を実施する。	

評価 (◎、○、△、×、-)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
平成30年度事業報告に対する意見	
<p> ・この実績報告に対しては、進捗を評価せざるを得ません。年度目標とした「検討する」は実践できたとして、トータルな目標である再整備への道すじは立っているのでしょうか。ここについての記述が担当課評価に表われていないと、この評価シートの意味もなくなります。事業実績欄には、検討した成果についても触れていただきたいと存じます。 </p> <p> ・事業目標どおり進捗しており、各公園の特色を考慮し、さらに地域との連携しての再整備は高く評価できる。 </p> <p> ・地域と連携を進めながら公園の再整備に期待できる。ドッグランの確保ができ、犬好きの方々は大喜びでしょう。 </p> <p> ・順調に実績を重ねているようなのは喜ばしいが、「事業量」に3年間も具体的な目標がないのに、「事業実績」がどんどん積み重なっているのが理解困難です。 </p> <p> ・地域ごとに様々な特徴のある公園整備ができていると思う。継続していただきたい。 </p> <p> ・継続的な取り組みが評価できます。 </p>	

2.身近な緑拠点づくりプロジェクト

2-5 公共施設の緑化(屋上緑化、壁面緑化、校庭の芝生化、緑のカーテンなど)

施策の展開方針	公共施設は、身近に緑を感じられる拠点として、緑豊かなまちづくりの先導的な役割を果たすよう、広がりと厚みを持った緑の創出に努めていきます。
担当課	教育総務課・指導課・子育て支援課・生涯学習課・市民協働課・健康課・市立病院管理課・図書館課
対象施設など	市所管全公共施設
10年間の目標	市立保育園、市立小中学校、文化センター、地域振興プラザ、市立病院、城山体験学習館などで緑化の充実
展開手法など	既存施設では、緑化可能場所を対象に、屋上緑化、壁面緑化、校庭の芝生化、緑のカーテンなどの緑化を進め、既に整備済の箇所については維持に努めていきます。

担当課別行動計画

担当課名	教育総務課	
平成29年4月現在の状況	校庭の一部芝生化6校(第六小、向陽台小、長峰小、平尾小、二中、四中)	
事業目標量	一部芝生化した校庭(6校)、屋上緑化(2校)の維持。	
第三期事業量	平成29年度	一部芝生化した校庭の維持(6校) 屋上緑化の維持(2校)
	平成30年度	一部芝生化した校庭の維持(6校) 屋上緑化の維持(2校)
	平成31年度	一部芝生化した校庭の維持(6校) 屋上緑化の維持(2校)
第四期事業量	芝生化した校庭の維持(6校) 屋上緑化の維持(2校) 第四期行動計画策定時に追加を検討	
平成30年度事業報告		
事業目標	一部芝生化した校庭の維持(6校) 屋上緑化の維持(2校)	
事業実績	一部芝生化した校庭の維持、屋上緑化の維持を行った。	
担当課評価	○	
評価理由	一部芝生化した校庭の維持、屋上緑化の維持を行っている。	
今後の対応	引き続き一部芝生化した校庭の維持、屋上緑化の維持を行う。	

<p>評価 (◎、○、△、×、－)</p>	<p>○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)</p>
<p>平成30年度事業報告に対する意見</p>	
<p>・平尾小、向陽台小の芝生化はよく育っている。向陽台小のぶどう畑、梨畑、田んぼの稲など稲城ならではの教育の実習としてとても良いものである。管理もよくなされている。</p> <p>・一部芝生化というよりクローバー化？</p> <p>・芝生の管理は難しく、屋上についても維持が困難な昨今の気象であるため、現状維持するという事であろう。</p> <p>・屋上緑化に散水設備があるのに枯れている所が見受けられました。維持管理の方法を考えてみては。</p> <p>・芝生化が実施され維持管理が進んでいる。屋上緑化については気温上昇と雑草のはびこりと課題は多いが努力に期待している。二中の芝生化は手入れも素晴らしい。</p> <p>・継続的な取り組みが評価される。</p> <p>・芝生を維持するのは、大変なことではないでしょうか。長期休暇中などは、どのようにされておられるのか心配になります。予算書を見ないと分からないのですが、児童生徒教師で維持しておられるのか、委託業者が入っておられるのかで、その評価は大きく変わりそうです。</p> <p>・質の面で 不十分と言わざるを得ない。</p> <p>・小学校庭の芝生化した範囲については、良好な維持がなされていると感じました。これからも励まれてください。</p> <p>・一部芝生化については、それぞれの施設の個別事情もあり、実施方法、推進者・担い手、予算等も関連するので、なかなか一律に決められない難しい面があるので、個別に上手くいってない施設について、何らかの手立てを行う必要があると思います。</p>	

担当課名	指導課	
平成29年4月現在の状況	小中学校18校で緑のカーテンを継続している。	
事業目標量	小中学校17校で緑のカーテンを実施する(継続)。	
第三期事業量	平成29年度	小中学校18校で緑のカーテンを継続する。
	平成30年度	小中学校18校で緑のカーテンを継続する。
	平成31年度	小中学校18校で緑のカーテンを継続する。
第四期事業量	小中学校18校で緑のカーテンを継続する。	
平成30年度事業報告		
事業目標	小中学校18校で緑のカーテンを継続する。	
事業実績	小中学校18校にゴーヤ等の種を配布した。原則的に全校実施として いるが、生育状況に差が生じている。(平均的な設置規模は24㎡)	
担当課評価	△	
評価理由	学校によって、生育状況に差が生じているため。	
今後の対応	適宜、学校への啓発を図る。	

評価 (◎、○、△、×、－)	△やや評価できる(少し遅れ気味だが、確実に進んでいるなど)
平成30年度事業報告に対する意見	
<p>・緑のカーテンは学校毎に成育状況が違っている。学校で楽しめる苗が植えられることに期待したい。暑さに強いもの、例えばカラスウリ等、実証できると良い。</p> <p>・やはり今年の暑さで夏休み中とはいえ緑のカーテンは見られなかった。南山小に少しだけゴーヤ、へちまのカーテンらしき物が見られた。</p> <p>・これも、大変な活動に思います。学校により差があるとのことですから、児童生徒教師に任されていると想像いたします。種を配り、啓発する以外の支援を検討されておられるのかが気になります。地域の方々にご支援を頂いているところなどは、あるのでしょうか。</p> <p>・緑のカーテンについては、時代の遅れの感が否めないのも、審議会で目標項目を入れ替えることも含めて議論してはどうでしょうか。</p> <p>・育成の差については種まきの時期のずれによるものと思われるが、作業にかかわった生徒達に理由を検討させるべきであろう。窓際の生徒が集中できないということの無いようにするべきではないかと思われる。</p> <p>・学校は忙しいので「啓発」するのは現場がかわいそう。</p> <p>・例示にある「遅れ気味だが確実に進んだ」ではなく、逆のニュアンスの「成果は顕著ではないが、事情も理解できる」という意味での△評価です。緑のカーテンについては、担当課より、育成に向けた各校の努力が効いてくるとは思いますが、視察した範囲では、この部分については必ずしも十分とは思いませんでした。緑のカーテンという行動自体が魅力を失っているのかもしれない。やるだけはやりました、という姿勢からの脱却には、目標や手法、その成果などを学校側とうまく共有できる方法があればと考えます。今後に期待します。</p> <p>・緑のカーテンについては、各学校の事情があるので、学校側に任せた方がいいと思う。</p> <p>・天候の問題もあるがそれ以前に、積極的に実施している学校が無いという印象。</p>	

担当課名	子育て支援課	
平成29年4月現在の状況	公設公営3保育園での花壇・緑のカーテン・菜園の実施を継続	
事業目標量	保育園4園での花壇、緑のカーテン、菜園を実施する(継続)。	
第三期事業量	平成29年度	公設公営3保育園での花壇・緑のカーテン・菜園の実施(継続)
	平成30年度	公設公営3保育園での花壇・緑のカーテン・菜園の実施(継続)
	平成31年度	公設公営3保育園での花壇・緑のカーテン・菜園の実施(継続)
第四期事業量	公設公営3保育園での花壇・緑のカーテン・菜園の実施(継続)	
平成30年度事業報告		
事業目標	公設公営3保育園での花壇・緑のカーテン・菜園の実施(継続)	
事業実績	保育園での花壇(12個のプランターで一年を通じて植栽を実施)・緑のカーテン(園庭門付近にフウセンカズラを植える・砂場の上部棚には、キウイフルーツの蔓をはわせる)・菜園(夏野菜・ジャガイモ・サツマイモ・大根)を実施。昨年度に比べ、ひまわり、朝顔等が順調に成長し、より充実した緑のカーテンとなった。	
担当課評価	○	
評価理由	トマト、なす等の野菜やひまわり、朝顔等の花が順調に成長し緑のカーテンとなった。	
今後の対応	引き続き、緑のカーテンの充実を図る。	

評価 (◎、○、△、×、－)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
平成30年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・キウイ棚は元気いっぱいの状況となった。花壇、菜園は肥料不足みであるが努力して育成してくれることに期待。 ・保育活動をしながらの維持管理は、相当の負担を強いていると思います。写真だけでは分かりませんが、多分に義務でやっていると思われるところも見受けられるので、地域の方々のご支援は望めないのでしょうか。 ・緑のカーテンの趣旨は、緑の育成だけではなく、その結果としての建物内・園庭などの温湿度環境の改善にあると思います。残念ながら、それを顕著に感じられる実態はないように思います。今後、手法や規模について、各保育園との意志共有に期待します。 ・第5保育園のエントランスから中庭の花壇、キウイなど順調に生育、手入れがされてあった。第3保育園も同じく手入れがされてあった。園庭にある大きな樹木は堂々とした風格があった。 ・教育の現場にゆとりが無くなっている昨今、菜園、果実、植栽のはたす役割は大きいと思います。今後も継続実施をお願いします。 ・現地視察の結果、各園での緑に対する取り組みが高いことが評価される。 ・野菜を収穫してそれが給食に使われる お話が印象深いです。 ・様々な種類の植物によって観察や収穫ができると思う。継続していただきたい。 	

担当課名	生涯学習課	
平成29年4月現在の状況	文化センター5館で緑のカーテンを実施。iプラザの屋上緑化を維持。	
事業目標量	文化センター5館で緑のカーテンを実施する。iプラザの屋上緑化を維持する(継続)。	
第三期事業量	平成29年度	文化センター5館で緑のカーテンを継続する。iプラザの屋上緑化を継続する。
	平成30年度	文化センター5館で緑のカーテンを継続する。iプラザの屋上緑化を継続する。
	平成31年度	文化センター5館で緑のカーテンを継続する。iプラザの屋上緑化を継続する。
第四期事業量	文化センター5館で緑のカーテンを継続する。iプラザの屋上緑化を継続する。	
平成30年度事業報告		
事業目標	文化センター5館で緑のカーテンを継続する。iプラザの屋上緑化を継続する。	
事業実績	文化センター5館で緑のカーテンを実施し、iプラザも継続している。	
担当課評価	○	
評価理由	現状維持が適当である。	
今後の対応	現状維持をする。	

評価 (◎、○、△、×、－)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
平成30年度事業報告に対する意見	
<p>・現場の確認ができず評価が難しい。iプラザの写真のみの判断となる。土壌が浅い様子の為、長雨や猛暑の影響が懸念される。</p> <p>・緑のカーテンの趣旨は、緑の育成だけではなく、その結果としての建物内や外部空間の温湿度環境の改善にあると思います。残念ながら、それを顕著に感じられる実態はないように思います。今後、手法や規模について、各施設との意志共有に期待します。</p> <p>・屋上緑化の維持に期待したい。</p> <p>・ただ単に維持管理をすると、「させられている」ということになりはしないでしょうか。現状、市民に開放されていないと思いますので、「愛でて頂く」ことを考えても良いと思います。警備上の問題や維持管理が余計大変になると考えられる訳ですが、市民の力をお借りすることはご検討でしょうか。</p>	

担当課名	市民協働課	
平成29年4月現在の状況	地域振興プラザの屋上緑化を維持している。	
事業目標量	地域振興プラザの屋上緑化を維持する(継続)。	
第三期事業量	平成29年度	屋上緑化の維持管理を継続する。
	平成30年度	屋上緑化の維持管理を継続する。
	平成31年度	屋上緑化の維持管理を継続する。
第四期事業量	屋上緑化の維持管理を継続する。	
平成30年度事業報告		
事業目標	屋上緑化の維持管理を継続する。	
事業実績	地域振興プラザ屋上緑化の継続	
担当課評価	◎	
評価理由	復旧作業を実施し、屋上緑化を推進したため。	
今後の対応	平成30年10月の台風により屋上緑化用コンテナが損傷したが、補修を実施するとともに、一部枯損していたセダムの植栽を再度実施、屋上緑化を推進した。今後は、現状の設備の範疇で引き続き緑化推進に取り組んでいく。 品種については、乾燥や高低温に強く、また繁殖力も強い性質から、当面セダムを継続する。	

評価 (◎、○、△、×、－)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
平成30年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・今年の暑さでセダムもダメージを受けたようだが、秋にセダムの復活があるかもしれない。期待したい。 ・ただ単に維持管理をすると、「させられている」ということになりはしないでしょうか。現状、市民に開放されていないと思いますので、「愛でて頂く」ことを考えても良いと思います。警備上の問題や維持管理が余計大変になると考えられる訳ですが、市民の力をお借りすることはご検討でしょうか。 ・一部に破綻は生じたものの、一時の荒廃からは脱却できたようで、維持管理の努力は感じることができました。 ・補修した様子が見て取れる。 ・維持管理に期待したい。 	

担当課名	健康課	
平成29年4月現在の状況	概ね維持できている。	
事業目標量	稲城市健康プラザの屋上緑化を維持する(継続)。	
第三期事業量	平成29年度	オーエンス健康プラザの屋上緑化を継続する。
	平成30年度	オーエンス健康プラザの屋上緑化を継続する。
	平成31年度	オーエンス健康プラザの屋上緑化を継続する。
第四期事業量	オーエンス健康プラザの屋上緑化を継続する。	
平成30年度事業報告		
事業目標	オーエンス健康プラザの屋上緑化を継続する。	
事業実績	概ね維持できている。	
担当課評価	○	
評価理由	指定管理者と連携し、草刈りや散水の調整など緑化に努めた。	
今後の対応	緑化を維持していくため、指定管理者との連携をより深める。	

評価 (◎、○、△、×、-)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
平成30年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・当初植えた植物は遷移している可能性がある。屋上での管理は種等の飛来も多いと思われる、困難が予想される。 ・概ね維持できていることが評価できる。 ・指定管理者の記述があるので、そうした方向になっていると承知をいたしました。しかしながら、ここも市民には開放されていないのではと思われます。恐縮ですが、そうした方向性があるか否かの表記をお願いしたいと思います。 ・緑化？ 雑草化ですよ。 ・引き続き、指定管理者との連携を期待しております。 ・せっかくの設備(散水)が機能していないのでは。 ・一部枯れてはいたが、管理が出来ていた。 ・リュウノヒゲやチガヤ(雑草)が元気であったが、玉リュウやセダムは高温のため枯れかかっている。維持管理に期待したい。 ・部分的に劣化状況が見られましたが、当初の目的は概ね維持できていると思います。 	

担当課名	市立病院 管理課	
平成29年4月現在の状況	稲城市立病院検診センター外来棟、立体駐車場の屋上緑化を継続している。	
事業目標量	稲城市立病院検診センター外来棟、立体駐車場の屋上緑化を維持する(継続)。	
第三期事業量	平成29年度	稲城市立病院検診センター外来棟、立体駐車場の屋上緑化を継続する。
	平成30年度	稲城市立病院検診センター外来棟、立体駐車場の屋上緑化を継続する。
	平成31年度	稲城市立病院検診センター外来棟、立体駐車場の屋上緑化を継続する。
第四期事業量	稲城市立病院検診センター外来棟、立体駐車場の屋上緑化を継続する。	
平成30年度事業報告		
事業目標	稲城市立病院検診センター外来棟、立体駐車場の屋上緑化を継続する。	
事業実績	健診外来棟:リュウノヒゲ135㎡ 立体駐車場屋上:アベリア・ツツジ・ハギ・ヤマブキ等150㎡	
担当課評価	○	
評価理由	緑化率の促進及び目で見える安らぎに貢献している。	
今後の対応	健診外来棟の花壇を継続維持管理をしていく。	

評価 (◎、○、△、×、-)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
平成30年度事業報告に対する意見	
<p>・ここは、解放されているように思います。しかしながら、立体駐車場の屋上なので、患者は一旦地上に降りる勘定です。病院棟で4階以上の西側の方々には見ていただけそうですが、安らぎに貢献していて欲しいと思います。東側の健康プラザの屋上緑化は、配付写真でも、航空写真でも、もう少しの感があります。</p> <p>・立体駐車場屋上の植え込みはよく管理されている。検診センター外来棟の緑化は一部枯れているが、だいたい緑を保っている。</p> <p>・検診センター、立体駐車場は、事業の趣旨をご理解いただいて緑化率の向上に貢献しており、引き続きのご尽力を期待しております。</p> <p>・立体駐車場は効果的な位置を緑化したこともあり、良好な環境を維持できていると思います。</p> <p>・駐車場では土壌厚が十分なため他の屋上部と比べ、比較的管理しやすいと思われるが、外来棟では駐車場と異なり、土壌が薄く管理が困難であることを思わせる。</p> <p>・実に見事である。言う事なし。</p> <p>・維持管理が良好に行われていることが評価できます。</p>	

担当課名	図書館課	
平成29年4月現在の状況	城山体験学習館の屋上緑化を継続している。	
事業目標量	城山体験学習館の屋上緑化を維持する(継続)。	
第三期事業量	平成29年度	城山体験学習館の屋上緑化を継続する。
	平成30年度	城山体験学習館の屋上緑化を継続する。
	平成31年度	城山体験学習館の屋上緑化を継続する。
第四期事業量	城山体験学習館の屋上緑化を継続する。	
平成30年度事業報告		
事業目標	城山体験学習館の屋上緑化を継続する。	
事業実績	城山体験学習館の屋上緑化を継続している。	
担当課評価	○	
評価理由	概ね実施できている。	
今後の対応	城山体験学習館の屋上緑化を継続する。	

評価 (◎、○、△、×、－)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
平成30年度事業報告に対する意見	
<p>・ここも閉鎖されているのではないのでしょうか。図書館と体験学習館の間の区域は、ボランティアの方がお入りとしますので、手入れをする方と見る方の双方が入れる工夫をご検討願いたく思います。</p> <p>・概ね良好と思います。他の屋上緑化と異なり、公園側から市民の目に触れる機会もある場所だけに、今後の継続に期待します。</p> <p>・維持管理に期待したい。</p> <p>・今年状況写真のみのため、評価が難しいが、全体的に以前よりも密度が疎となっていると思われる。灌水装置等もないと思われ、自然に任せている状態ではないだろうか。</p>	

2.身近な緑拠点づくりプロジェクト

2-6 自然樹形を感じさせる維持管理の検討

施策の展開方針	道路は日常的に市民が利用する空間であり、道路の緑がもたらすイメージは緑の豊かさを感じるための主要な要素になっています。また、広がりと厚みを持った豊かな街路樹のある道路は、季節を感じることができます。 これからの街路樹は、それぞれの樹種の特徴を活かした自然樹形を感じさせる剪定手法や、美しい花を楽しめる剪定期の採用など、維持管理手法を検討していきます。
担当課	土木課・管理課
対象施設など	周辺への影響が少ない大規模な公園 周辺への影響が少ない路線
10年間の目標	5公園、8路線
展開手法など	周辺への影響が少ない大規模な公園や市道を対象に、自然樹形を感じさせる樹木管理を行い、街に風格を与えるように努めます。これらのために、緑の育成管理手法の検討、選定手法など維持管理手法の検討を行います。 都道は、東京都へ協力を要請します。

担当課別行動計画

担当課名	土木課	
平成29年4月現在の状況	自然樹形を感じさせる育成管理を継続している。	
事業目標量	稲城中央公園、城山公園、若葉台公園、大丸公園、平尾近隣公園で実施する。	
第三期事業量	平成29年度	自然樹形を感じさせる育成管理を継続する。代表的な樹木をホームページに掲載し、PRを行う。
	平成30年度	自然樹形を感じさせる育成管理を継続する。
	平成31年度	自然樹形を感じさせる育成管理を継続する。
第四期事業量	自然樹形を感じさせる育成管理を継続する。	
平成30年度事業報告		
事業目標	自然樹形を感じさせる育成管理を継続する。	
事業実績	可能な限り、強剪定は行わず、自然樹形を感じさせる育成管理を継続している。	
担当課評価	○	
評価理由	自然樹形を感じさせる育成管理を継続しているため。	
今後の対応	自然樹形を感じさせる育成管理を継続する。	

<p>評価 (◎、○、△、×、－)</p>	<p>○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)</p>
<p>平成30年度事業報告に対する意見</p>	
<p>・公園内の植栽はよく管理されている。 ・自然樹形を感じさせる育成管理が維持されていることが評価できる。 ・市街地の中で自然樹形を維持するのは難しいのではないか。 ・29年度の担当課評価では、残課題について具体的な記述があり、好感をもてたのですが、そこで挙げられていた市民へのPRなどは、どのような取り組みと成果または失敗があったのでしょうか。そういう記述には今後も期待したいです。 ・「管理しやすいこと」と「自然樹形を保つこと」の関係は、対角ではないと思います。何より、以前は、折角の花が咲く前に切ってしまうことが見受けられました。ただ、これから日陰が欲しい夏前に、丸坊主にしてしまうのは未だに見受けられます。上手い工夫があればと思います。 ・提示された中央公園での写真は、2年前に剪定されたものとの事。2年間でやっとこの程度の密度になったという事であろう。大丸や若葉台の樹木は真近で見えていないので何とも言えない。 ・景観に癒される風情が感じられるよう剪定に配慮いただき、継続して欲しい。 ・「自然樹形を感じさせる育成管理を継続する」という考え方は賛成です。ただ、PDCAの目標として掲げることに違和感を感じます。具体的に「何を・何時迄・どのようにして・どのくらい(量やレベル)」を目標として掲げ。結果について評価し、改善に繋げることができないのでは？</p>	

担当課名	管理課	
平成29年4月現在の状況	現況8路線の適切な育成管理を行った。	
事業目標量	堅神社通り、プラザふれあいロード、若葉台東櫨の木通り、若葉台西櫨の木通り、若葉台中央通り、若葉台公園西通り、多摩川サイクリングロード、三沢川側道で実施する。	
第三期事業量	平成29年度	追加路線を検討する。自然樹形を感じさせる育成管理を継続する。
	平成30年度	自然樹形を感じさせる育成管理を継続する。
	平成31年度	自然樹形を感じさせる育成管理を継続する。
第四期事業量	自然樹形を感じさせる育成管理を継続する。	
平成30年度事業報告		
事業目標	自然樹形を感じさせる育成管理を継続する。	
事業実績	自然樹形を感じさせる育成管理を行った。	
担当課評価	○	
評価理由	3路線について自然樹形を感じさせる形の剪定を実施した。	
今後の対応	自然樹形を感じさせる育成管理を継続する。	

評価 (◎、○、△、×、－)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
平成30年度事業報告に対する意見	
<p>・「自然樹形を感じさせる維持管理」の評価基準が明確でないので、ご教示頂ければ幸いです。</p> <p>・景観に癒される風情が感じられるような剪定作業に期待します。</p> <p>・上空からの写真だけで判断するのは困難である。歩いてみるとサクラなどかなり傷んでいる樹木も確認した。枝の直下に歩道や車道があるため、安全に配慮した管理をしていただきたいと思う。</p> <p>・前年度残課題にされた「管理上必要な剪定と自然樹形育成の両立」は、どのように克服されたのでしょうか。次の年度につなぐ重要な事項と思いますので、ぜひ具体的な評価をして、課の中、市の中で共有していただきたいです。</p> <p>・「管理しやすいこと」と「自然樹形を保つこと」の関係は、対角ではないのではと思います。何より、以前は、折角の花が咲く前に切ってしまうことが見受けられました。ただ、これから日陰が欲しい夏前に、丸坊主にしてしまうのは未だに見受けられます。上手い工夫があればと思います。</p> <p>・自然樹形を感じさせる育成管理が維持されていることが評価できます。</p>	

3.新市街地の緑創造プロジェクト

3-1 土地区画整理事業による公園・緑地の整備

施策の展開方針	土地区画整理事業により、新市街地の整備とともに、計画的に配置された公園や緑地が整備されます。これらの公園・緑地の整備にあたり、積極的に広がりと厚みを持った緑を創出し、緑につつまれたまちづくりを進めます。また、植栽する樹木には、樹名板を設置して市民が親しみを持てるようにします。
担当課	区画整理課・市街地整備課
対象施設など	新たに設置される公園・緑地
10年間の目標	公園16箇所(120,077㎡) 緑地13箇所(33,911㎡)
展開手法など	事業区域内の権利者や関係団体と協議し、緑の基本計画の考え方が反映されるように、整備内容の検討を進めます。

担当課別行動計画

担当課名	区画整理課	
平成29年4月現在の状況	南多摩駅周辺土地区画整理事業：公園1箇所529㎡の設計中	
事業目標量	公園(6箇所)10,488㎡を整備する。	
第三期事業量	平成29年度	
	平成30年度	
	平成31年度	
第四期事業量	榎戸土地区画整理事業：公園3箇所8,001㎡〔吉方公園、(仮称)矢野口公園、(仮称)円覚寺公園〕 矢野口駅周辺土地区画整理事業：公園2箇所1,958㎡(公園2号、4号) 南多摩駅周辺土地区画整理事業：公園1箇所529㎡(3号公園)	
平成30年度事業報告		
事業目標	-	
事業実績	3号公園整備完了	
担当課評価	○	
評価理由	稲城長沼駅前広場に隣接する3号公園の工事を完了したため「○」評価とした。	
今後の対応	未整備の公園の整備に努めていく。	

評価 (◎、○、△、×、-)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
平成30年度事業報告に対する意見	
<p>・前年度も指摘したところですが、事業目標欄が空欄になったままなのは、この評価シートのシステムとして理解しがたいところです。結果実績はあるにせよ、それをもって「評価○」というのでは、目標を掲げるシステムになじまず、外部からの評価を困難にします。</p> <p>・木の周辺の間際までアスファルトで固めると、根っこによってアスファルトを壊される事例を見聞します。この辺の対策は進んでいるのでしょうか。</p> <p>・工事が終わり安堵していることと思うのだが、果たして方針である広がりと厚みを持った緑の創出はできたのだろうか。</p> <p>・植栽の維持管理、楽しみにしたい。</p>	

担当課名	市街地整備課	
平成29年4月現在の状況	上平尾土地区画整理地区内の公園2箇所9,350㎡(三反田湧水公園、寺谷津公園)	
事業目標量	公園10箇所110,589㎡、緑地13箇所33,911㎡	
第三期事業量	平成29年度	南山土地区画整理地内の公園1箇所9,405㎡、緑地2箇所7,479㎡ 上平尾土地区画整理地内の公園2箇所4,164㎡、緑地5箇所17,565㎡
	平成30年度	南山土地区画整理地内の緑地1箇所3,851㎡
	平成31年度	南山土地区画整理地内の緑地3箇所3,026㎡ 小田良土地区画整理地内の公園3箇所8,180㎡
第四期事業量	南山土地区画整理地内の公園2箇所79,490㎡、緑地2箇所1,990㎡	
平成30年度事業報告		
事業目標	南山土地区画整理地内の緑地1箇所3,851㎡	
事業実績	緑地の整備には至らなかった。	
担当課評価	×	
評価理由	土地区画整理事業の進捗により事業実施に至らなかった。	
今後の対応	工程の見直しを図り、組合に指導、助言を行う。	

評価 (◎、○、△、×、-)	×評価できない(まったく進んでいないなど)
平成30年度事業報告に対する意見	
<p>・三反田湧水公園の小川では小さい子供が遊ぶ場所として楽しい場所である。水場をいつもきれいに保って欲しい。樹木が植えられてないが、日陰として何本かは植えても良いのではないか。</p> <p>・引き続き、組合へのご指導をお願い致します。</p> <p>・工程に無理がなかったかを検討する必要があると思う。</p> <p>・担当課の責にない事情での遅延は、否定的に評価すべきではないと思います。その事情への取り組みも想定されているところから、遅れ気味という評価としました。</p> <p>・十分で用意周到、自然保全審議会の評価に耐えうるような整備をお願いいたします。</p>	

3.新市街地の緑創造プロジェクト

3-2 公共施設の緑化(学校など)

施策の展開方針	稲城市では、土地区画整理事業による新市街地の整備が進められています。新しく整備される市街地では、新たな公共施設の整備もされます。これらについて、積極的に広がりや厚みを持った緑を創出し、緑につつまれたまちづくりを進めます。
担当課	教育総務課
対象施設など	南山小学校における屋上緑化などの緑の創出と維持
10年間の目標	敷地内緑化及び屋上緑化などによる緑の創出と維持
展開手法など	南山小学校について、屋上緑化などの緑の創出を進めます。
備考	2-5に再掲

担当課別行動計画

担当課名	教育総務課	
平成29年4月現在の状況	南山小学校の敷地内緑化及び屋上緑化の維持。	
事業目標量	南山小学校における敷地内緑化及び屋上緑化などの緑の創出と維持をする。	
第三期事業量	平成29年度	敷地内緑化及び屋上緑化の維持
	平成30年度	敷地内緑化及び屋上緑化の維持
	平成31年度	敷地内緑化及び屋上緑化の維持
第四期事業量	敷地内緑化及び屋上緑化の維持	
平成30年度事業報告		
事業目標	敷地内緑化及び屋上緑化の維持	
事業実績	敷地内緑化及び屋上緑化の維持を行った。	
担当課評価	○	
評価理由	敷地内緑化及び屋上緑化の維持が出来た。	
今後の対応	引き続き敷地内緑化及び屋上緑化の維持を行う。	

評価 (◎、○、△、×、-)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
平成30年度事業報告に対する意見	
<p>・芝生は実にきれいに維持されていた。用務員さんの努力の賜物ですね。屋上緑化は玉リュウ、セダムが限界状況であった。維持管理に期待したい。ビオトープ池は生物の生息が期待できる。</p> <p>・南山学校を現調視察させていただき、大変参考になりました。各学年毎に野菜や植物を育てている現実は大変感心いたしました。また、校庭のビオトープの小さな生物生息空間を見て、緑化だけでなく、生物生息空間の確保も大切あることを再認識しました。</p> <p>・見学をさせていただきありがとうございました。中庭で授業の一環として植物を育てているのがリアルに感じられ、またビオトープに親しんでいる生徒たちのお話もあり、緑化教育への期待値があがりました。</p> <p>・敷地内緑化は良好でしたが、屋上緑化については、育成実態や設備機能に、他の緑化施設では見かけなかった一部破綻が見えました。学校側だけでは対処できない状況も思いますので、担当課からの支援に期待します。</p> <p>・緑化ではなく雑草化では？</p> <p>・概ね維持管理されていることが評価できます。</p> <p>・ここに児童は立ち入ることは出来るのでしょうか。見られるのは大変ですが、見られて認識されるので励むことはないのでしょうか。ご検討ください。</p> <p>・南に面した庭の芝生が青々と生育している。屋上緑化はこの夏の異常な暑さと夏休みのためか植物が枯れてしまっていたのが残念。校庭の隅に造られたビオトープにはメダカが泳ぎ、子供たちの癒しの一つになる場所として評価したい。池にもっと水草など植えられれば涼しさを誘うと思う。</p> <p>・新しく整備された日の浅い小学校である。学校周りに植えられた樹木は、伸長量が少なく感じた。今後衰退しないことを願っている。屋上に関しては、激しい気象害の中、試行錯誤の上維持していただきたい。</p>	

3.新市街地の緑創造プロジェクト

3-3 地区計画区域の拡充と緑化率条例の検討

施策の展開方針	この10年間で整備完了が見込まれている南山東部土地区画整理事業・上平尾土地区画整理事業・(仮称)小田良土地区画整理事業では、適切に緑が確保され、良好な市街地が形成されるように、地区計画区域の拡充を図るとともに、緑化率などの導入について検討を進めていきます。
担当課	都市計画課
対象施設など	南山東部土地区画整理事業・上平尾土地区画整理事業・小田良土地区画整理事業、押立第一地区
10年間の目標	3箇所145.9haの決定
展開手法など	各土地区画整理事業区域において、地区計画の決定を行います。地区計画の内容に、緑化率などの導入を盛り込むことを検討します。

担当課別行動計画

担当課名	都市計画課	
平成29年4月現在の状況	緑化率の制限を盛り込んだ地区計画を5箇所190.5haを決定	
事業目標量	3箇所145.9haを決定する。	
第三期事業量	平成29年度	南山東部土地区画整理事業の変更に伴う地区計画変更において緑化率の制限する範囲を拡大する。
	平成30年度	既存の地区計画の変更において緑化に関する事項の追加を検討する。
	平成31年度	既存の地区計画の変更において緑化に関する事項の追加を検討する。
第四期事業量	既存の地区計画の変更において緑化に関する事項の追加を検討する。	
平成30年度事業報告		
事業目標	既存の地区計画の変更において緑化に関する事項の追加を検討する。	
事業実績	既存地区計画の変更において、緑化に関する記載を追加し、所定の手続きを進めた。	
担当課評価	○	
評価理由	事業目標の通りに実施したため。	
今後の対応	引き続き、地区計画変更の際は緑化に関する事項の追加を検討していく。	

評価 (◎、○、△、×、－)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
平成30年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・新市街地だからこそ可能な先行規制により、良好な市街地が形成され、市域の模範となることに期待します。 ・計画であり、実施状況ではないと思われます。自然環境保全審議会ほかの過去の評価を参考に、抜きん出た計画と施工を期待しております。 ・南山、上平尾、小田良など現段階ではこちらには緑化計画がまったくわからないが、「検討されている」に期待したい。 ・実施されたことは評価するが、検討された内容がわからないため、判断が難しい。 	

3.新市街地の緑創造プロジェクト

3-4 四季折々に楽しめる街路樹の整備

施策の展開方針	稲城市では、土地区画整理事業による新市街地の整備が進められています。新しく整備される市街地では、骨格となる道路に街路樹が整備されます。 街路樹の整備は、四季折々に花や紅葉が楽しめるなど季節を感じることできる樹種を選ぶなど、緑を増やすだけではなく、暮らしにやすらぎをもたらすような工夫をして、緑につつまれたまちづくりを進めます。
担当課	区画整理課・市街地整備課
対象施設など	南多摩駅周辺土地区画整理事業、榎戸土地区画整理事業、矢野口駅周辺土地区画整理事業、稲城長沼駅周辺土地区画整理事業、南山東部土地区画整理事業、上平尾土地区画整理事業、(仮称)小田良土地区画整理事業
10年間の目標	16路線(9,103.8m)
展開手法など	樹種や植栽パターンは、稲城市樹木花卉植栽計画及び地域住民の意見を反映します。

担当課別行動計画

担当課名	区画整理課	
平成29年4月現在の状況	未実施	
事業目標量	5路線(1,539m)を整備する。	
第三期事業量	平成29年度	南多摩駅周辺土地区画整理事業: 矢野口大丸線(150m)
	平成30年度	
	平成31年度	
第四期事業量	榎戸土地区画整理事業: 宿榎戸線(380m)、公園通り梨の道線(630m)	
平成30年度事業報告		
事業目標	-	
事業実績	-	
担当課評価	-	
評価理由	-	
今後の対応	-	

評価 (◎、○、△、×、-)	-未評価(当該年度は着手時期ではない)
平成30年度事業報告に対する意見	
・今年度は評価対象ではありません。	

担当課名	市街地整備課	
平成29年4月現在の状況	南山地区5路線1,305m、上平尾地区2路線954m	
事業目標量	南山地区9路線4,984m、上平尾地区2路線1,077m、小田良地区2路線903m	
第三期事業量	平成29年度	南山地区4路線1,017mを整備する。
	平成30年度	南山地区3路線632m、小田良地区1路線245mを整備する。
	平成31年度	上平尾地区1路線123m、小田良地区1路線658mを整備する。
第四期事業量	南山地区6路線2,030mを整備する。	
平成30年度事業報告		
事業目標	南山地区3路線632m、小田良地区1路線245mを整備する。	
事業実績	小田良地区1路線整備完了	
担当課評価	△	
評価理由	小田良地区については、街路樹の整備が出来たが、南山地区については、土地区画整理事業の進捗により事業実施に至らなかった。	
今後の対応	工程の見直しを図り、組合に指導、助言を行う。	

評価 (◎、○、△、×、－)	△やや評価できる(少し遅れ気味だが、確実に進んでいるなど)
平成30年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・樹木に関しては、シラカシが主と思われる。葉の密度が低く心配するレベルである。気象と相談して灌水等を行う事も大切と思う。 ・あまり大きくなならない樹種(小田良地区1路線)なので成長が楽しみだ。事業の進捗に期待します。 ・地権者と協議しながらの事業ですので、拙速よりは着実なステップに期待します。土地区画整理事業の場合、時間はかかっても、着実な成果が期待できますので、遅れはあまり心配いたしません。自己評価が△であり、目標より遅れているのも事実であるため、当方の評価も△としましたが、悪い評価としたつもりではありません。 ・目標が2か所あり、着手できない所があるのはお困りでしょう。 	

4.駅前緑化プロジェクト

4-1 駅・駅前広場の緑化

施策の展開方針	市街地内の南北分断や交通渋滞を解消するために、JR南武線の高架事業を進めています。高架事業の完了にあわせて、JR南武線の稲城長沼駅と南多摩駅には、駅前広場が整備されます。これから新しく整備される駅前広場は、緑を大切にしている稲城市民の気持ちが伝わるような、緑が豊かで心やすらぐ姿となるように広がりと厚みを持った緑の整備を進めていきます。
担当課	区画整理課
対象施設など	JR南武線 稲城長沼駅、南多摩駅の駅前広場の整備
10年間の目標	稲城長沼駅・南多摩駅で緑豊かで心安らく駅前広場の整備
展開手法など	事業区間内の地権者や関係団体と、緑豊かな駅前広場の整備内容について検討していきます。

担当課別行動計画

担当課名	区画整理課	
平成29年4月現在の状況	南多摩駅前広場(2,400㎡)整備工事施工	
事業目標量	JR南武線稲城長沼駅、南多摩駅の駅前広場を整備する。	
第三期事業量	平成29年度	-
	平成30年度	-
	平成31年度	-
第四期事業量	稲城長沼駅前広場4,400㎡の整備	
平成30年度事業報告		
事業目標	-	
事業実績	-	
担当課評価	-	
評価理由	-	
今後の対応	-	

評価 (◎、○、△、×、-)	-未評価(当該年度は着手時期ではない)
平成30年度事業報告に対する意見	
・今年度は評価対象ではありません。	

5.市民活動の支援と育成プロジェクト

5-1 市民ボランティアの人材育成・組織化・活動支援

施策の展開方針	人材の育成と組織化については、水と緑のまちづくりの地域リーダー、樹林地保全活動の指導者、自然観察の指導者、アダプト制度の参加者、公園でのプレイリーダーなど、活動の核となる人材の育成と、その組織化について取り組み、市民団体の知識や技術力向上のための支援、道具や資材などの活動支援について検討していきます。
担当課	土木課・市街地整備課
対象施設など	稲城中央公園・城山公園・若葉台公園・南山東部地区内の公園・緑地
10年間の目標	プレイリーダーによる公園運営の定着(稲城中央公園) 樹林地管理ボランティアの活動の定着(稲城中央公園、城山公園)
展開手法など	稲城中央公園の一部区域で、市民主体のプレイリーダーによる公園の運営を軌道にのせるために、市民とともに検討を進めていきます。城山公園・若葉台公園・南山東部地区内の公園・緑地で市民主体の樹林地の育成活動の展開を進め、樹林地管理ボランティア活動の定着を進めていきます。

担当課別行動計画

担当課名	土木課	
平成29年4月現在の状況	方向性が定まっていない。	
事業目標量	プレイリーダーによる公園運営を定着させる(稲城中央公園)。樹林地管理ボランティアの活動を定着させる(稲城中央公園、城山公園)。	
第三期事業量	平成29年度	プレイリーダー・樹林地管理ボランティアの活動方針の策定
	平成30年度	プレイリーダーの活動試行、樹林地管理ボランティア指導者の選定
	平成31年度	プレイリーダーの活動本格実施、樹林地管理ボランティア指導者の育成
第四期事業量	プレイリーダーの活動継続 樹林地管理ボランティア活動の試行、本格実施	
平成30年度事業報告		
事業目標	プレイリーダーの活動試行、樹林地管理ボランティア指導者の選定	
事業実績	活動方針の策定のため、樹林地管理ボランティアについて、近隣市や市内の活動事例を調査した。	
担当課評価	×	
評価理由	活動方針の策定に至らなかったため。	
今後の対応	検討会等で検討を行い、活動方針を策定する。	

評価 (◎、○、△、×、－)	× 評価できない(まったく進んでいないなど)
平成30年度事業報告に対する意見	
<p>・ボランティア活動している人達はパワーがあります。あの力を活用しない手はありません。人材育成には月日が掛かるものです。今年度も活動方針の策定に至りませんでした。もうそろそろ大まかな活動方針を決め人材育成に軸足を移したらいかがでしょう。活動しながら細部は稲城の実情に合わせ決めていけばと思います。</p> <p>・一連の事業のなかで、最も期待する事業であるが、本来の事業目標には触れないまま、前年度からの残課題に対しての担当課評価が記述され、しかもできなかったという結果に憂慮している。事業趣旨は間違っていないと考えるので、着実な進捗を実現させるための方策について、見直していくことも必要ではないか。市の内部だけの検討では方針策定が困難であるなら、その実情を市民に公開して知恵や協力を求めること、市が制御しやすい活動にこだわることなく、市民パワーを集めやすい形態を模索することも重要と考える。</p> <p>・リーダーを作るためには、ある程度のボランティア人数が必要である。指導者には多くの負担が予想されるし、作業自体を少人数で行うことも負担が大きく、行えることも限られると思われる。まずボランティアを募った上で、方向性を探り指導者となりうる人材を見つけるという方向ではないだろうか。</p> <p>・近隣地の活動事例が調査されるなど、少しずつではあるが取り組みが始まった。今後の取り組みが期待される。</p> <p>・プレイリーダー、樹林地管理ボランティアの活動に期待したい。</p> <p>・プレイリーダーや樹林地管理ボランティアの活動が順調に進むことを期待しております。</p> <p>・樹林地管理ボランティアについては近隣自治体の活動事例を通して要綱づくりに向けて進行中。</p> <p>・実行性のあるものにした方がよい。</p>	

担当課名	市街地整備課	
平成29年4月現在の状況	市民共有の財産となるような公園、緑地あり方検討会を4回開催	
事業目標量	エリアマネジメント組織による公園づくり及び維持管理を検討する(南山東部地区)	
第三期事業量	平成29年度	樹林地管理の実施
	平成30年度	樹林地管理の実施
	平成31年度	樹林地管理の実施
第四期事業量	樹林地管理の実施	
平成30年度事業報告		
事業目標	樹林地管理の実施	
事業実績	第5回 公園・緑地あり方検討会を開催	
担当課評価	△	
評価理由	南山地区の公園・緑地あり方について基本方針を作成中。	
今後の対応	基本方針がまとまり次第、公園・緑地あり方検討会を開催。	

評価 (◎、○、△、×、－)	△やや評価できる(少し遅れ気味だが、確実に進んでいるなど)
平成30年度事業報告に対する意見	
<p>・前年度の報告において「第5回公園・あり方検討会を開催」という実績が記述されているが、30年度の実績として「第5回 公園・緑地あり方検討会を開催」とあるのは、検討会の名称が微妙に異なるので、別のものであるのか二重の計上なのか、読み取ることができなかった。いずれにせよ「検討している」だけでは評価もできないので、進捗に不安ありとの評価となった。</p> <p>・3か年同じ事業量が並ぶということから、相当産みの苦しみをされていると思います。区整が遅れているということもあるようですが、頂戴した資料写真によれば拠点も立ち上がり、種々の相当濃い活動(エリアマネジメントのHPIによる)を行っておられるようですので、しっかり評価シートに報告が上がっても良いのではと思います。</p> <p>・昨年度に引き続き具体的な内容がわからない。検討会は第5回となっているが、6回目であろうか。</p>	

5.市民活動の支援と育成プロジェクト

5-2 各種普及啓発活動の実施

施策の展開方針	稲城市が管理する公共施設の植栽に樹名板を設置し、市民の緑への関心を高め、緑に対し理解を深めていく機会を増やしていきます。
担当課	土木課・管理課・指導課
対象施設など	公園・道路植栽・学校(小学校11校・中学校6校)
10年間の目標	126公園 7路線 17校
展開手法など	児童生徒や多くの市民の目につきやすい主要な部分から樹種の調査を行い、市民による手づくり樹名板などの設置の検討を行います。その他、新たに整備される公園・道路では、主要な場所の植栽に樹名板を設置します。

担当課別行動計画

担当課名	土木課	
平成29年4月現在の状況	-	
事業目標量	樹名板を126公園に設置する。	
第三期事業量	平成29年度	樹名板を街区公園(15公園)に設置する。
	平成30年度	樹名板を街区公園(15公園)に設置する。
	平成31年度	樹名板を街区公園(14公園)に設置する。
第四期事業量	樹名板を街区公園(44公園)に設置する。	
平成30年度事業報告		
事業目標	樹名板を街区公園(15公園)に設置する。	
事業実績	平尾近隣公園内に指定管理者が約20枚設置。	
担当課評価	△	
評価理由	1公園のみの設置であったため。	
今後の対応	引き続き樹名板の設置を行う。	

評価 (◎、○、△、×、-)	△やや評価できる(少し遅れ気味だが、確実に進んでいるなど)
平成30年度事業報告に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> ・最も実施しやすいテーマである。やろうと思えばすぐにも実施可能ではないか。 ・指定管理者ではなく市民による手づくり樹名板を検討ではなく実施してみてもは(自治会・PTA/清少協等々) ・平尾近隣公園内の樹木約20本に名札が設置されていたが、もっとたくさんの木々に名札を付けて欲しい。名札は目立つように大きく。 ・地道にやるしかないのかな? ・昨年度4公園での設置に終わり、批判が出ていたと思う。今年は1公園のみの設置であった。何とか体裁を整えた感は否めない。 ・担当課による評価や今後の対応欄においては、前年度・当該年度で、目標を大きく下回った実績となった事情や、これに向けた対応の方向性などにも触れていただかないと、ただの○×付けになってしまう。少しずつでも積み上げていくための評価や取り組みに期待します。 ・本報告によれば、対象15公園に対して、1公園のみの実施と読み取れる。予算が下りていると思うので、これはかなり深刻な状況と思う。ここに、きちんとした説明があって欲しい。

担当課名	管理課	
平成29年4月現在の状況	樹名板の設置方法について、検討を行っている。	
事業目標量	樹名板を7路線に設置する。	
第三期事業量	平成29年度	樹名板を2路線に設置する。
	平成30年度	樹名板を2路線に設置する。
	平成31年度	樹名板を3路線に設置する。
第四期事業量	樹名板を2路線に設置する。	
平成30年度事業報告		
事業目標	樹名板を2路線に設置する。	
事業実績	樹名板を2路線に設置しなかった。	
担当課評価	×	
評価理由	対象路線の選定、設置方法の検討ができなかった。	
今後の対応	対象路線の選定、設置方法の検討を行う。	

評価 (◎、○、△、×、－)	× 評価できない(まったく進んでいないなど)
平成30年度事業報告に対する意見	
<p>・昨年度も設置されなかった。設置するという作業の問題なのか路線選定の問題なのか、あるいは両方なのか問われてしまうと思う。</p> <p>・樹名板を準備し、早急に実施する事に期待する。</p> <p>・なぜ対象路線の選定が出来なかったのか、設置方法の検討が出来なかったのかの記述があっても良いのではと思う。</p> <p>・前年度には「樹名板のデザインが決まらない」ことが進捗不全の事情という説明があったが、これは、今回の「設置方法」と同じ意味であるのか。進んでいない事情を言葉を換えて説明されたのでは、現状がどうなっているのか理解することができない。こういった単純な目標については、予算があるのに実施できなかったのか、実施の態勢はとったのに予算が不足したのか気がなるところである。目標の積み残しが継続してしまった事情についても説明がないのが残念である。</p>	

担当課名	指導課	
平成29年4月現在の状況	-	
事業目標量	樹名板を17校に設置する。	
第三期事業量	平成29年度	樹名板を2校に設置する。
	平成30年度	樹名板を2校に設置する。
	平成31年度	樹名板を2校に設置する。
第四期事業量	樹名板を2校に設置する。	
平成30年度事業報告		
事業目標	樹名板を2校に設置する。	
事業実績	樹名板を2校に設置した。	
担当課評価	○	
評価理由	2校に設置することができたため。	
今後の対応	適宜、取り組みを促していく。	

評価 (◎、○、△、×、-)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
平成30年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・目標を達成したと読み取れるが、今後の対応に、「適宜、取り組みを促していく。」との表記がなされていることが理解できない。 ・前年度は、事業実績欄に設置2校の校名が明記されていたが、30年度の2校についても、実施したのであれば校名を明らかにしていただきたい。事業状況がマスクされていたので、外部からの評価にも支障がある。 ・対象は17校 ・17校のうち今年度までに6校設置では樹木名を知らないまま卒業？ 子供期に植物に少しでも関心をもたせることが大事では？ ・取組みに期待しています。 ・内容はわからないが、2校に設置されたとの事。 	

5.市民活動の支援と育成プロジェクト

5-3 水と緑の情報収集・提供

施策の展開方針	水と緑に関する情報を市民と行政が共有化し、より多くの市民自らが積極的に水と緑のまちづくりを進めていけるように、水と緑に関する情報の収集と提供に努めます。
担当課	土木課
対象施設など	市内全域
10年間の目標	ホームページなどによる情報提供の充実 アダプト団体の交流の場の提供と活動の活発化による情報交換の促進
展開手法など	指定管理者との連携を図り、市内各所の花の見所・時期、イベント情報などの公園・緑地の魅力を発信します。 アダプト制度による市民活動の活動報告の場の提供や各種活動団体同士の交流の場の提供などを検討します。

担当課別行動計画

担当課名	土木課	
平成29年4月現在の状況	市ホームページによる情報提供	
事業目標量	ホームページなどによる情報提供を充実させる。アダプト団体の交流の場を提供し、活動を活性化させ、情報交換を促進する。	
第三期事業量	平成29年度	市ホームページの充実、アダプト制度による市民活動の活性化
	平成30年度	市ホームページの充実、アダプト制度による市民活動の活性化
	平成31年度	市ホームページの充実、アダプト制度による市民活動の活性化
第四期事業量	市ホームページの充実、アダプト制度による市民活動の活性化	
平成30年度事業報告		
事業目標	市ホームページの充実、アダプト制度による市民活動の活性化	
事業実績	市ホームページにアダプト制度について掲載。市広報にアダプト制度の募集記事を掲載。	
担当課評価	○	
評価理由	市広報へのアダプト制度の掲載、ホームページ内容の更新等により、周知を実施し、登録団体数が増えたため。	
今後の対応	ホームページの内容の充実を図り、市民活動の活性化を促進する。	

<p>評価 (◎、○、△、×、－)</p>	<p>○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)</p>
<p>平成30年度事業報告に対する意見</p>	
<p>・団体交流の場・情報交換はとても大事だと思います。他のグループの活動に刺激を受け、新たな展開も望めるからです。その際は花の植栽等をしているグループには数枚の写真と地図を展示してもらえれば交流しやすいのではないですか。市民の皆さんに分かりやすいよう市役所や総合体育館に展示はどうですか。</p> <p>・評価理由の前半は、29年度評価と全く同文でした。登録団体数が増えたことは喜ばしいのですが、前年度に課題とした「広報内容の充実」については、改善できたのかどうかを評価欄にて記述してほしいです。この評価システムは、各課の事業目標と実績を継続的にみることができる貴重な機会です。前年度の反省を活かして次の対応につなげるためにも、継続的な記述を心がけていただけると幸いです。</p> <p>・地道な取り組みが評価できます。</p> <p>・評価シート以外に結果をまとめておられるかとは思いますが、登録団体がどの程度増えたか、また、活動休止になった団体がどの程度あるかの表記は出来ないのでしょうか。</p> <p>・今後活性化することになれば良いと思う。</p> <p>・引き続き、HPへの掲載やアダプト制度の告知が、市民自然活動の活性化に繋がりますので期待しております。</p> <p>・HPへの入り方がわかりづらい。ワンクリックで入れると良いですね。</p>	